

日本ブロンテ協会関西支部
2015年大会プログラム

場 所: 摂南大学寝屋川キャンパス10号館 3階 プチテアトル
(〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町17-8
京阪本線「寝屋川市」駅南出口を出て、京阪バス西口バス3番乗り場から
③⑤⑩⑪⑫番に乘車し、「摂南大学」で下車 約15分)

日 時: 2015年3月28日(土)13:30~19:30

司 会: 八木 美奈子(武庫川女子大学講師)

開会の辞: 服部 慶子(日本ブロンテ協会関西支部支部長・大阪大谷大学教授)

会長挨拶: 白井 義昭(立正大学教授)

会場校挨拶: 岩間 香(摂南大学外国語学部長)

研究発表: 13:40~14:40

「バイロニック・ヒーローとは何か—An Informative Presentation」

良田 玲子(龍谷大学講師)

「何がジェインに『空色』の服を着せたのか」

音部 みはる(大阪市立西高等学校教諭)

講 演: 14:55~15:55

「国家の形成と歴史小説の確立」

米本 弘一(神戸大学教授)

談話会: 16:10~17:10

テーマ 「ブロンテのふるさと」

司会 瀧川 宏樹(近畿大学講師)

発題者 青木 六子(ブロンテ愛好者)

住田 雅江(ブロンテ愛好者)

永田 信子(ブロンテ愛好者)

総 会: 17:10~17:20

閉会の辞: 内田 能嗣(日本ブロンテ協会顧問・帝塚山学院大学名誉教授)

懇親会: 17:30~19:30

場 所: 摂南大学寝屋川キャンパス11号館 最上階スカイラウンジ

会 費: 5,000円

日本ブロンテ協会関西支部

事務局 〒530-0055 大阪市北区野崎町1-25 新大和ビル3F 大阪教育図書株式会社内

TEL: 06-6361-5936(代) bronte.kansai@gmail.com

研究発表

1. 「バイロニック・ヒーローとは何か ——An Informative Presentation」

良田玲子(龍谷大学講師)

『ジェイン・エア』や『嵐が丘』等のブロンテ姉妹の作品分析の用語としてしばしばバイロニック・ヒーローが使用されるが、その意味するところは掴み難い。たとえば、『ブロンテ姉妹を学ぶ人のために』(2005)では、「ウエリントン公爵の息子ザモーナ公爵や、共和主義革命家から伯爵となったノーザンガーランド等のようなバイロニックな男性で……」(p.36)、あるいは「シャーロットは彼をバイロニック・ヒーローにふさわしくするための道具として女性たちを描いていたので、その描写は非常に単純なものではない」(p.56)、また「一言でいえば、『バイロニック』であるが、その他の独特の要素が加味されているので、それはあくまでも『バイロニック』であったと言わなければならない」(p.257)というように、「バイロニック・ヒーロー」が多用されている。そこで、Peter Thorslev Jr.の *The Byronic Hero* (1962) と Anne Williams の *Art of Darkness: A Poetics of Gothic* (1995) における分類・解釈によって、バイロニック・ヒーローについての一つの考えを提示したい。

2. 「何がジェインに『空色』の服を着せたのか」

音部みはる(大阪市立西高等学校教諭)

『ジェイン・エア』(*Jane Eyre*, 1847)のなかで、家庭教師であるジェインは、地味な「黒色」の衣服を身に着けて過ごす。まるでモノクロのジェインである。その一方で、周囲の人々の衣装や装飾にも大いに関心を示すが、こちらは、カラーの世界である。そして物語の最後に、ジェインは今まで身に着けたことのない「空色」の衣服を身にまとい、ロチェスター氏の時計を首から下げて、さりげなく登場する。そこに、ジェインがモノクロではなくなったことが読み取れる。ジェインをそこに導いたのは、端的に言えば思いがけない遺産であったということになるが、そのずっと前からジェインに本物の愛情を示していたロチェスター氏の存在が画期的であったと言えるのではないだろうか。最初にプロポーズされた時、ジェインは「おとぎ話のようなことは起こらない」と述べるが、「シンデレラ物語」とは展開の異なるシンデレラ・ストーリーが、当時はセンセーショナルであり、今も読者の心をつかんでいるという結論につなげた。